

第1回 滑川市保育のあり方検討会議 会議録

日 時：令和8年8月29日(金) 午前6時30分～

場 所：滑川市役所東別館3階 中会議室

【委員】

役 職	氏 名
富山国際大学 子ども育成学部 教授	石倉 卓子
社会福祉法人穀行福祉会 理事長 中加積保育園 園長	柳溪 暁秀
幼保連携型きたかづみ認定こども園 園長	富川 美樹子
滑川市社会福祉協議会 会長	西元 正史
公募委員	竹 友紀
公募委員	池本 寛

【事務局】

役 職	氏 名
教育長	上田 良美
教育委員会事務局長	高倉 晋二
子育て応援課長	木田 猛
子育て応援課主幹	加藤 二郎

次第

☐ 教育長あいさつ

☐ 委嘱状交付・委員紹介

☐ 議題

(1) 本市の保育の提供について

(2) 今後の推移等について

(3) アンケートの実施について

(4) その他

☐ 意見交換

議題1 本市の保育の提供について
(事務局が説明)

議題2 今後の推移等について
(事務局が説明)

議題3 アンケートの素案について
(事務局が説明)

【事務局】

保護者アンケートの素案を提示した。専門的な立場や現場の経験から、質問の削除や追加などの意見をいただきたい。

【委員】

- ・言葉の修正：「保育サービス」という表現は教育の一環として違和感があるため、「保育の質の向上」等に変えてほしい。
- ・アンケート内容：単に「自宅からの距離」を尋ねる内容は時代遅れ。ICT化、防災、地域文化、学童保育などの未来の観点や市側の意図（方針）を盛り込むべき。
- ・まちづくりの視点：富山市の園の統廃合の報道もあるが、当会議の役割はどうか。地域の区分やまちづくりとの関連性を明確にすべき。

【事務局】

「保育サービス」は修正する。全3回の会議を経て報告書を作成予定であり、まちづくりの視点が必要な場合は担当部署と協議する。

【委員】

アンケート対象に、市外から市内の園に通っている保護者も含まれるか。

【事務局】

労働環境の観点からも重要であるため、市民に限定せず幅広く意見をいただく。

【委員】

- ・会議の目的：この会議は高校再編のように「施設の再編」まで踏み込んでよいのか、それとも「環境づくりの充実」に重きを置くのか。
- ・アンケート追加項目：保育士の人数（量的側面）だけでなく、一人ひとりに丁寧に対応する「関わりの質」に関する項目も追加してほしい。

【事務局】

- ・施設の再編：滑川市では現時点で私立施設の再編（統合）を要請することは考えていない。施設数の多さを「きめ細かな保育ができる強み」と捉え、人口減少を保育の質を高める好機としたい。

【委員】

人口密度の低い地域は立地格差があるため、各園が「特別な保育」や学童保育、防災、特色ある工夫などの経営努力をして魅力を高める必要がある。

【事務局】

その通りである。アンケートで特別保育の需要や保護者の要望を探り、優先順位や公立・私立の体制（役割分担）を検討したい。

【委員】

全国の人口減少地域（北海道、島根など）でも、若者定住や地域交流拠点、特別支援保育、自然体験活動（森のようちえん等）の強化によって少人数で園を維持している事例がある。各園の強みを相互理解し、公私のバランスを保つ話し合いが必要である。

【事務局】

本会議の目的は、人口減少下で持続可能な保育運営を行うための施策検討である。将来的には保育士不足も充足へ向かうため、保育水準の底上げを図りたい。

【委員】

アンケートの自由意見に期待している。小規模園が多数ある現状を維持できるかも財政面から検討課題である。経営問題と手厚い環境のバランスの舵取りは難しい。

【委員】

保育所に学童が併設されている場合、長期休暇中の給食提供やきょうだい一括の送迎は保護者に非常に便利。小学校区の学童スタッフが不足する中、卒園した保育園での学童実施ニーズはある。

【委員】

本会議の主要目的は、ニーズをまとめて各園にフィードバックし経営安定化の指針を示すことか。市の方針として具体的な選択肢を示す予定はあるか。

【事務局】

結果は速やかに共有する。施設側から具体的な提案があれば、国の制度や補助金を精査して行政的な支援を行う。

【委員】

施設が新たな取り組みをするには資金や人材の現実的な課題があるため、行政が具体的な支援策・選択肢をあわせて提示してくれれば施設側の意欲に繋がる。

【事務局】

学童保育の補足として、地域主体の小学校区学童に対し、民間保育園の学童では給食提供やバス運行など独自の工夫がある。お迎えの利便性の視点に感謝する。

【委員】

「量から質への転換」「こどもまんなか」の理念のもと、市全体で最善の環境を整えるべき。保育の質向上のため、公立保育所が先導、あるいは持ち回りで実践的な研修システム（公開保育など）を構築するとよい。

【事務局】

滑川市の強みは、保育行政を福祉部局ではなく「教育委員会」が所管している点。改定予定の保育指針等の動向を共有し、幼児教育を充実させたい。その上で、集約化（2つある公立保育所の統合の是非や独自の意義）についても今後の会議で様々な意見をいただきたい。最終的には公私の役割分担や目指すべき方向性の明確な指針を当会議から示してほしい。

【委員】

現在はインクルーシブな保育へシフトしている。災害対応や、地域資源（メリカ）・伝統文化（ねぶた流し）の伝承など、市内全体を俯瞰した広範な取り組みを展開するなら、やはり公立園が役割を担うのが適している。

【委員】

年長児保護者へのアンケートで、約66%が小学校就学に何らかの不安を抱えている結果が出た。滑川市が教育委員会主導で作成している「架け橋プログラム」による幼小接続の実績は、本市の大きな特色になり得る。

【事務局】

「保護者の不安」がまだ解消しきれていない現状が浮き彫りになったため、今後の重要施策の切り口にしたい。

（終　了）